

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回小金井市新庁舎・(仮称)新福祉会館建設基本設計委託事業者選考等委員会
事 務 局	企画財政部長 天野 建司 庁舎建設等担当課長 高橋 茂夫 公共施設マネジメント推進担当課長 今井 哲也 企画政策課企画政策係主査 渡邊 健介 企画政策課企画政策係主任 岡崎 章尚 小林 洋輔 福祉保健部長 中谷 行男 福祉会館等担当課長 前島 賢 地域福祉課地域福祉係主査 山口 晋平
開 催 日 時	平成31年3月16日午前10時00分から午後6時00分まで
開 催 場 所	萌え木ホール (審査は商工会館2階大会議室)
出 席 者	委員長 卯月 盛夫 委員 委員 金子 和夫 委員 委員 河上 牧子 委員 委員 水谷 俊博 委員 委員 宮下 清栄 委員 委員 山家 京子 委員 委員 小泉 雅裕 委員
傍 聴 の 可 否	不可 (公開プレゼンテーション及びヒアリング時は可)
傍 聴 者 数	76人 (公開プレゼンテーション及びヒアリング時)
傍聴不可等の理由等	小金井市新庁舎・(仮称)新福祉会館建設基本設計委託事業者選考等委員会設置要綱第5条第4項
会 議 次 第	1 開会 2 委員長挨拶、委員自己紹介 3 二次選考 公開プレゼンテーション、ヒアリング (1) 大建設・雄建築事務所 共同企業体 (2) 株式会社 遠藤克彦建築研究所 (3) 株式会社 横河建築設計事務所 (4) 株式会社 佐藤総合計画 (5) 株式会社 安井建築設計事務所 東京事務所 4 二次選考 公開プレゼンテーション、ヒアリング 閉会 5 二次選考 審査 (1) 意見交換 (2) 採点 (3) 採点結果の集計 (4) 採点結果の確認、事業候補者及び事業候補次点者の決定 6 閉会
会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
提 出 資 料	資料1：技術提案書に関する事前質疑回答 資料2：選考結果及び技術提案書の公表について 資料3：公募型プロポーザル選考結果報告書 (案)
そ の 他	—

次第1 開会

次第2 委員長挨拶、委員自己紹介

次第3 二次選考 公開プレゼンテーション、ヒアリング
《「大建設・雄建築事務所 共同企業体」のプレゼンテーション》

【委員長】 各委員より質問があればこれを求める。

【委員】 外部に広場を多く取っているところは非常に魅力的である。ただその分、施設計画自体は非常にコンパクトになっているようなイメージを受けた。今回庁舎と福祉会館の施設連携ということも1つの大事なテーマになっていると思うが、1棟構成にしている説明もいただいている以外に、計画上、連携に対して配慮していることがあれば教えてほしい。

あとは両機能の接点の部分、ロビーがその起点になると思うが、それ以外に、連携的なことで計画上配慮しているものがあれば教えていただきたい。

【提案者】 配置的に言うとL型の配置にしているのですが、そのちょうど結節の部分が両方に接しているというのがある。それとI型のプランに比べるとL型にした方が両施設が近くなるということがあるので、より連携が取りやすいと考えている。

さらに、接点部分にオープンスペース等を設け、人がより中央に集まってくれるようにという工夫を狙っているが、それ以外にも屋外空間もあり、各階にテラスというものもあるので、その辺で多様な交流が図れればという仕掛けをしていく。

また、1階のエントランスホールとマルチホールが一体となった空間になっているので、その辺はまだ余裕がある。大きさに変化を付ける等、今後ワークショップ等で市民の要望等を聴きながら、どういう空間をつくっていけばいいのかということについても配慮していく。

【委員】 駐輪場が中央線沿いに設定されていたと思うが、駐輪場に向かうまでの車と言っても、基本的に車だけではなくて、自転車と歩行者、特に福祉会館があるので、自転車を含めた歩車分離を、どのように動線として考えているのか教えてほしい。

さらに、地下駐車場とのことだが、福祉会館ではいわゆるリフト付きの大型バス等を利用することも想定される。そうした大型バスの駐車等々、あるいはその入る動線、車道関係、それらの広さ等々がよく分からないので、説明をお願いしたい。

【提案者】 まず、駐輪場について、こちらは庁舎の手前側と福祉会館側と2か所設けている。この位置が武蔵小金井と東小金井のちょうど中央部分にあるので、アプローチする方は両側から来られることが多い。実際には非常に細い場所だが、ここを通っている方も結構多いので、一応自転車は常に近い側、両側に止められるようにする。

歩車分離に関して言うと、基本的には車道部分と歩道部分を分けているが、どうしても渡る関係で、その渡る部分はどうしても交錯が出るというのは仕方がないと判断している。

次に、地下駐車場にしたために大型のバス等をどうするかという話であるが、本来、ここに保健センターがあり、レントゲン車や検診車の停める場所が必要になるので、ロータリーは大型車が回れるだけのスペースを取っている。そして、一応軌跡をチェックしたが、この部分に大型のバス、検診車等を止められるだけのスペースを確保している。

さらに、福祉会館に直接来られる方がいるので、この前に身障者用の駐車場を3台と、一般駐車場を2台、特に玄関に直結したいような車を止めたい方は、ここに少し止められるスペースを配置しているということで、地下と地上と両方で対応できるように考えている。

【委員】 市民の皆さんの気持ちに寄り添って、非常に丁寧に作られた案だと感じた。緑に包まれた庁舎というのもよく伝わってきたと思う。他の案と比べると駐車場を地下化したところがこの案の大きな特徴と感じている。

オープンスペースの大部分を緑地化するというので、具体的にそこの使われ方、ハードな舗装での使われ方との違い、つまり実際に広場的に使うのとやはり違うかと思うので、その辺りのメリット、デメリットを教えてほしい。

【提案者】 我々がこの案で大きなオープンスペースを確保しようと考えたのは、現在、暫定公園として利用されていて、我々は当然何回も現地に行っているが、いつ行っても子どもたちが元気に遊んでいるというものがあって、ワークショップ等でも市民の皆さまから、あそこの公園は必ずなくさないでというようなことをずっと言われ続けている。そのため、本当はここまでの大きさは要らないのかもしれないが、やはり現況以上のものを残してあげたいというのが我々の思いである。

さらに、今ほとんどの部分を地下駐車場にしているということがあり、例えばこれを半分だけ地下にすると、地下に行く動線と地上に行く動線が両方必要になり、土地の利用効率が非常に悪くなるということがあるので、地下にほとんどのものをというのがある。

さらに、使い方だが、これもまた市民の皆さまの意見を聞くのが大事だと思うが、今でも結

構な頻度で子どもたちが遊んでいて、近くの保育園から園庭がないのでここで運動するという使われ方もあるので、ある程度のものが必要だろうと考えている。

しかし、ただの広大な原っぱのようなものをつくっても利用頻度が上がらないので、やはり少し特徴を付けて落ち着いた空間や少し広々とした空間等、さらに、ここは桜の名所なので桜を中心とした空間等、そういう特徴付けをすることによって、その四季折々に市民で利用していただけるというのがあると思う。

さらに、ここに駐車場等をつくってしまうと、将来に渡ってこの土地の利用ができなくなるということがある。東京都内でこれだけの土地というのは非常に価値があるので、この部分を将来付属施設か何か分からないが他に利用し、また、他の場所にこれだけの公園をつくらうと思っても、小金井にもう土地があまりないのでつけれない。

それと、さらに小金井公園や武蔵野公園等大きな公園はあるが、この近隣には意外と公園がないということもあるので、ここで1つ大きなインパクトのある公園をつくることで、地域のためにも役に立つのではないかと考えた。

【委員】 小金井の水と緑をよく表していると思う。立体公園にするときにエコパーク等という維持管理の考え方と、さらに、貯水はどの程度貯水することを考えて47%の削減となっているのか、教えてほしい。

【提案者】 全体の維持管理については地上部分に関しては基本的には公園と同じような管理ができるようにするが、なるべく手間のかからない樹種の選定等を行うことにより、維持管理費の削減を図っていく。

屋上庭園部分もあるが、この部分に関してもあまり無理をしない屋上緑化というか、最近の屋上緑化というのは結構軽量化を優先して薄い土壌に無理やり植物を植えるというタイプが多いが、そうではなくて少し荷重が増えてもいいので、厚めの土壌にすることによってメンテナンスが少なく済むような樹種を植え、維持管理軽減に配慮した。

貯水量は、今は分からないが、修景でビオトープに使うための雨水利用等を想定しているので、その分がかなり減っているのと、中水をトイレの洗浄水等に使うので、その分が数字として表れる。

【委員】 福祉会館を免震構造にするというところは特徴的である。免震構造によって一般的にはコスト増になるリスクがあり、デメリットもあるかと思う。一方、一体構造や安全性の向上、機能連携等様々なメリットの部分があると思うが、そのコスト増をいかに抑えるかという考え方と、免震構造にするメリット、最も大きな効果を幾つか挙げてほしい。

【提案者】 免震構造にするメリットは、まず一体にすることによって、今回の案で言うと地下を一体的に利用できるということがある。一体にすることにより免震構造のエキスパンションジョイントというのは働き幅が600mm等になるので、行って来いで1,200mmほどの巨大なプレートが自由に動く。

そうすると1メートル当たり何十万円という金額のエキスパンションジョイントが必要になるので、それを建物全周等に回すと億単位のお金になる。今回もおそらく6,000万円ほどになるけれども、その程度の費用を減らすことができる。

片や免震構造にしたとして、免震ゴムは1個300万円ほどで、柱等もあるけれども、その辺を相殺すると、コスト的には思ったほどのコストインパクトではない。一体的にするとコストだけではなく、もちろん福祉会館側の耐震性が向上するというのも1つある。

災害対策のところにも書いてあるが、福祉会館側でも災害対策機能というものを持たせるということも考えられるので、その辺で耐震性を向上させるというのは非常にメリットがあるかと思う。

さらに、一体にすることによりエキスパンションジョイント分の隙間のようなものがなくなるということと、それに付いている外壁等もなくなるので、その辺のコストも下がると考える。

【委員】 市民の方々の意見を取り入れるということで、そこに非常に配慮した計画となっている。例えば、中高生から高齢者までワールドカフェ方式でワークショップをするということだが、特に中高生とはどういう形でワークショップをし、どういう意見を引き出したいのか。

それから地域防災の視点から、災害時要支援者の対象となりそうな方々で、特に移動に困難を伴いそうな方々、または何らかの障害をお持ちの方々、そのような方々の声を取り入れるようなことは、ワールドカフェ方式の中で考えているか。

【提案者】 我々はこの小金井庁舎の調査業務というものをこれまで行い、そこでも同じように中高生から高齢の方まで、幅広く募集してワークショップを行った。その中には障害者の方も当然応募してくれたので、その方も入れているいろんな話をした。これからも同じような形で行ってほしいと思う。

どうしてもワークショップというとおじさんとおばさんが集まって地味な話をしているという感じが多いが、中高生等を入れると、もう俄然、孫が来たという感じで話が盛り上がるということと、これからの小金井を背負う世代、若い子たちの言葉というのは非常に大切だと思

うし、実際に行ってみると中高生の方というのは、非常に夢を語ってくれる。そのため、非常にいいワークショップになるというのが実績としてあるので、これは続けていきたいと考えている。

【委員長】 今市民のワークショップの話が出たが、提案の中には市議会議員のワークショップ、あるいはワーキンググループというような表現があった。今までそういうことを行っている自治体はないと思うが、それについて補足説明をお願いしたい。

【提案者】 おおむね普通の施設と違って庁舎は議会との調整というのがかなり難しいところがあり、この自治体も議会との調整に苦労しているところがある。

当然それはやらなければいけないことだが、たまたま我々は市民ワークショップを行っているときに、市民ワークショップの経過が良かったので、議員にも行ってくれないかと冗談半分で言われたことがあって、それはそれでいいことだと思った。

議員は議員の中で委員会等格式ばったところで話をすることが多いと思うが、ワークショップのようにざっくばらんに話ができるところで庁舎について考える等ということはおそらくされていないので、これを機会に一度そういうことを行ってみてはどうかということを提案した。

議員がどう考えるかによって答えはおそらく違うと思うが、少しでも議員の本音が聞ければと思う。もちろん市民ワークショップ側に議員に入ってもらってもいいが、そういう意味でいろいろな方法を考えていく。

【委員長】 そういう事例はあるのか。

【提案者】 実際に議員のワークショップを行った実績はない。職員はあるが議員だけのワークショップはしたことはない。

【委員】 拝見していて、また今日もプレゼンテーションを伺っていて、非常にバランスのいい計画で、実現できればいいと思う反面、このコンセプト、プランの一番の売りというか、コンセプトの最も強く打ち出したいところを、もう少し明確に教えていただけるといい。このプランの最大の売り、コンセプトでここが大事というところを教えてください。

【提案者】 緑地が多くあり緑に包まれているということが、見た目でも最も目立っていると思う。もちろん、それも最大の売りではあるが、地下駐車場にして広大なオープンスペースを残し、庁舎と福祉会館側はシンプルでコンパクトな機能的なプランとするということで、その合理的なプランでコストも削減し、それでおおかつ広大なオープンスペースを取るという、その合理的な計画というものがおそらく最大の売りだと思う。

【委員】 福祉会館の福祉共同作業所が上層階に設置予定となっているが、その理由は何か。

【提案者】 福祉会館の基本計画の中で様々なゾーニングを検討していて、その中の1つとして上層階に設けるという案があり、今回はそれを採用している。福祉会館の機能に関しては今後も議論が必要だと思うし、ゾーニングや部屋の入れ替え等はこれから柔軟に対応できるプランにしているので、今後、対応できる。

基本計画の中では落ち着いた所に設けたいということで、最上階という案があった。そのためそれを採用している。

【委員】 施設のデザインについてお話をいただきたい。市民の顔となる本施設全体のデザインコンセプトについて伺いたい。

【提案者】 今回、緑の中のということで、緑を主張できるようなシンプルな外観というものが1つある。さらに、メンテナンスを考慮したバルコニーを設けるということもあるので、バルコニーの横のラインを強調した形状である。

さらにL型というかV型のプランになっているので、その接続部をRで繋ぐことによって、その施設全体を柔らかく見せるということで、小金井市の緑を大事にしているということと、さらに水の流れのようなものを表現できればと思っている。

【委員長】 取組方針で複数案を何回か提案するとある。表現として分かるが、実際に進めるときに複数案考えるというのは結構大変なことかと思うので、補足してほしい。

【提案者】 最近の庁舎は複数案の比較をしないとなかなか周りを説得できないということもあるので、最近我々が行っているものも、配置、平面、構造計画もそうだが、その各項目において複数案を提示するようにしている。

ただし、スピード感というものも、また一方では大切になるので、その辺はBIMを使う等の工夫を行うことで、素早く複数案をつくるというようなことを最近訓練しているので、その辺で行う。

【委員長】 現在、1案が出ており、色々な意見を聞き、次の段階では、変更ではなく2案、3案という大きな変更案が出るのか。

【提案者】 もちろん最初の頃はそのようにしていく。この案を基に変形するのではなく、この案なしでまた別の案というものも当然つくっていく。

【委員長】 小金井らしさとは何だと思うか。

【提案者】 まず、先ほどから言っているように、水と緑の町であるということ。小金井公園や武蔵野公園のような大きな緑地があるというのと、「はげ」のような所があるので、その辺の自然環境というのが1つの特徴である。

もう1つは、ワークショップ等を行って分かったが、若い世代の住民が多い自治体だということ。もう1つは市民の皆さんがこういうワークショップやまちづくりというものに対し、非常に関心が高い市民の方が多いということで、その辺が大きな特徴だと思う。

【委員】 これまでも庁舎を結構手掛けているということで、市民の方からは出てこなかったけれども、是非こういったことは実現してみたい新しい庁舎の在り方等あれば教えてほしい。

【提案者】 市民の皆さまはワークショップでも意外と遠慮して発言される方が多いので、できればオープンスペース等も、最初はこれほど要らないのではと思っていても、実際につくると結構頻繁に利用されていたり、思いもよらなかった利用をされていたりするところもあるので、そういう、何に使うのでこれをつくるのだというのものもあるが、自由な空間というものをつくとみんなが使い方を後で考えてくれるということもあるので、その辺をつくるというのが大事だと思う。

庁舎をつくるというのは、どうしてもそういった場所をつくる、ハードウェアをつくるということになるが、ハードウェアをつくるだけではなくて、ワークショップを通じて人が集まって実際に使う人たちのコミュニティをつくる、この庁舎づくりの中で人のコミュニティをつくるということが、庁舎をつくる醍醐味の1つかとこれまでの経験で思う。

そういう形でコミュニティをつくることによって、実際に出来上がった建物もその人たちが使っていこうという空気が生まれていくし、そういったハードウェアをつくる以上のことをつくっていけるのではないかと考えて取り組んでいる。今回もそのようにしたいと思っている。

【委員長】 以上で終了とする。

(休憩)

≪「株式会社 遠藤克彦建築研究所」のプレゼンテーション≫

【委員長】 各委員より質問があればこれを求める。

【委員】 1階部分を見ると、駐輪場が北と西で2か所になっている。マルチひろば等が設定されていて、西側から入る所にグラウンド0というような大きな広場ができていますが、そういった所と自転車の走行について教えてほしい。

特にベビーカー、車いす、あるいはその他様々な障害をお持ちの方々が通行するような中で、歩車分離ということである。車ということをも1つ念頭に置いているかもしれないが、自転車についてもこれは確実に分離していかないと、特に福祉会館を奥に設置するという場合には、非常に大きな事故が起きる可能性もあるので、その辺の動線をどのように考えているか教えてほしい。

【提案者】 私も自転車は大好きで、平日頃ロードレーサーで移動している人間だが、基本的に自転車というのはいわゆる道路交通法上では道路を走れというような運用がされるのがまず基本だと思う。

しかしながら、やはりいわゆるお母さまたちが乗るような自転車等、どうしても子どもを乗せて走る方々が歩道を通行するというようなことも避けて通れない、用意しておかなければいけないと思っている。

基本的にはスピードを出す、それからいわゆる社会インフラとして自転車が使われる想定で言えば、道路の方に寄せてデザイン、配置計画をつくるべきだと思うが、本計画においてはかなり歩道も含めてゆとりある計画を取っている。これらの中で車が通る道路、それから自転車の部分、そして歩行者、それから車いすというようなものをしっかりと分けて、この敷地内全体の計画を考えていこうと考えている。

特に北側の高架下に関しては、周辺自治体でも、まちづくりに寄与するような小さな建物、それから高架下の効果的な利用等が増え、もしかすると西側の道路からだけではなく、通過動

線としてこの場所が使われるのではないかと、そういう見通せない未来、見通せない将来のようなものを考えてこの計画を練り上げた。言ってみれば通過する敷地になる可能性である。

そういった意味で入口のつくり方、そして中へ入ってくる人のデザインに関しては、車以外のところをどのようにゆっくり歩かせるということを念頭に、小さく分節して建築をつくっているの、例えば自転車の方も歩行者の方も同じ面を歩くにしても、猛スピードで突っ込んでくるようなことは建築の計画としてはないと思っている。

【委員】 小金井の丘ということで緑のデザインに非常に特徴があるプランだと見ている。その中でインシャルコストの削減工夫というのは十分理解したが、ランニングコストはどうか。

いただいている書類ではこれから市民活動団体と協働してメンテナンスを考える、竣工後も建物に関わり続けることで、管理手法について考えるということだが、竣工後も建物に関わり続けるということも非常にいいことだと思う。

ランニングコストについてどういう工夫があるかという点と、竣工後も市民の方々と関わり続けるということに関し、市民の方々にどう理解をいただくのか、その工夫があれば教えてほしい。

【提案者】 まず緑については、パースで見ると結構なボリュームに見えるが、テラスの一片、2～3メートルの規模を緑化しているので、実際に地上で2,000㎡、屋上で1,000㎡程度の面積になっている。

行政側で決められている緑化率を守るということでは、おおむね同程度の規模なので、実量についてはそれほど多くない。見上げたときに緑が立体的に見えるので、豊かに見えるというのは我々の狙いどおりに感じていただけたらと思っている。

さらに特徴として、小金井市の社会基盤である地形、地勢、湧水等、標高44メートルから77メートルの間に非常に豊かな緑環境がある。これから持続可能な社会を目指す中で、そういった社会基盤の維持管理をどうするかが、市庁舎に限らず非常に大きなテーマだと思う。そういったところでの大きな公園や河川沿いの緑というものも、これから新しい市民参加型や、今までの管理のための管理というのか。今日、剪定をして次にまた管理をしないと美観上良くないというような管理の仕方ではなくて、そういった、その様々なこれからの社会問題を、この場所に少しの面積でもいいので、小金井市にある、貴重な自然資源を再現することで、例えばここでどういう管理をこれからしていけばいいかというような管理手法の実践の場としてここを使っていただく等。あるいは、そういった場所には市民の方でも非常に強い思いがあって、野川等も非常に時間をかけられた市民活動でホテルが再現されたというような風景もあるし、そういった気持ちのある方々が集まってきやすい場所をつくることで、今までと違った管理の出し方ややり方というものを、是非この場所から発信していけるような、新しい市民と行政が一体となるプラットフォームとして使っていただきたいという思いが提案の中にある。

十分な答えになっていないかもしれないが、これは新しい試みでもあり、私自身も例えば豊島区さんの庁舎や民間の施設だが、この近くでは二子玉川ライズ、同じようなアプローチで建築を新しいプロトタイプとしてつくっていて、かなりいい形で市民の方の協働や、この近くの農工大の先生に入っていただきやすい状況をつくる等、そういった新しい施設運営の在り方といったもののプラットフォームをつくりたいという思いで提案している。

地元との関わり方という点で1つ提案したいが、私はずっと野川沿いで生まれ育って、30年前は本当に野川もごみが多かったが、人が関わることで、私も小学生の時から観察等をした中で、愛着を持って野川を大切にしていこうという流れで、この30年で非常に大きく変わったと思っている。

環境教育の場として、そのテラスの部分を使っていただく、学芸大さんや農工大さんもあるので、そういった学生さんたち、生徒さんたちを含め、広く教育の場としても活用してもらおうというのが、ワークショップを繰り返す中で愛着というものが醸成されるのではないかとと思うので、是非庁舎建築の初期段階、設計段階から市民の方と協働することで、できた後の運用に対して積極的に関わっていただく、その人材も含めて掘り出していただければと思っている。

【委員】 建物の構成やデザインを含めて非常に魅力的な案だと思う。グラウンドが多層で構成されているというのが特徴だと思うが、その中で4階の「グラウンドー02」がメインの場という感じを受ける。そもそも4階につくったことの意義を教えてください。

1つは、4階までどのように人を導くのかということと、福祉会館を含めた庁舎機能として、内部が機能的に分断されてしまうイメージがあるが、その点への配慮があるのかということ。さらに、構造的にも少し負担がかかるのではないかとということで、もし意匠的、空間デザインの美的なメリット等が構造的にもあれば教えていただきたい。

【提案者】 まず、大前提として、私たちは今回の提案に関しては、プロポーザルであって、考え方の提示だと思っている。そういう意味では、この形でなければ私たちは駄目だということは全くなく、そこも全てこれから市民の皆さまと御一緒するつもりである。つまり、私たちが提示したのはコンセプトであり方向性であり、形ではないということである。

そういう意味で、特に分かりやすいのがこの4階の部分だが、まさに分かりやすいので4階

に用いた。ある意味、この小金井市の地勢をきちんと理解し伝えていくのに、この4階の場所にこういう市民協働の場、市民協働のフロアを集約させて配置し、そしてそこに自然環境を呼び込み体現する、そういう地勢を感じる、そういう場所として4階は非常に分かりやすいという思いで提案した。

逆に、今後、御用命いただいた場合は、ここが本当に4階で正しいのかから一緒に始めたい。2階かもしれないし、もしくはさらに上かもしれない、1階かもしれない、それは色々なスタディーをワークショップの中で行いながら、1階ならばこういうことができる、2階ならばこういうことができるということを皆さんで考えながら、こういう市民協働の場所が果たして何階にあれば皆さんのポテンシャルを引き出せるのかと、そういう建物のつくり方をしていきたいと思っている。

そうは言ってもやはり4階は非常に魅力的である。高さとしても、最初のパースにもあるが中央線も臨め、何よりこの小金井の地勢というもの、小金井の平面というものを臨める場所、人が多く溜まれる、そして屋根のある場所がこの程度の高さにあると、市民活動が一層豊かになると思い、4階に設定した。

この部分の構造について、4階だけでなく、そもそも免震の部分なので耐震的な負担は少ないが、それにしても耐震を負担する部分、地震力を負担する部分をグラウンドー02の部分を含んで東西にかなり耐震コア的な部分を取れる部分があり、それは全フロアを通してこの部分に地震力を負担させることができている。そのおかげでグラウンドー02の部分はかなり開放的、耐震をあまり負担しない部分ということである。

【委員】 コンセプトはよく分かって、グリーンインフラにすることや地形は非常に面白いと思って聞いていたが、かなり地上部に駐車場をつくっている。その辺のグリーンインフラという観点からは、駐車場はどのようなことを考えているか。

【提案者】 昨今の地球環境の変化というか、去年は1,000年に1度の雨が2回降ったと言われている。これから水害対策や、そういった自然災害対策をどうするかということは、非常に大事なポイントだと思っていて、1階にレインガーデンというものを提案しているが、これは建物に降った雨を屋上の緑地を通して下げることで、初期降雨の負荷を公共下水にかけないということである。

1階の広場にそれらを浸透させることで、例えば、子どもたちにここで浸透させている水が、ゆくゆくは野川に出るのだと。今までのただコンクリートの配管に入れて見えない所に流すというのではなく、駐車場の下層路盤にも今、砕石層を使ったそのような貯留機能を持った施設がある。

これは当然コストの問題もあるが、そういった新しい試みを一部でも建築とランドスケープと土木という今までの縦割りの構造を超えて実践するということが、非常に大事だと思っている。

今までの行政の窓口というのは縦になってしまって、その中で予算が決まるが、この建物あるいは外部空間、あるいは下水の考え方のようなものを横通しで新しい挑戦をしていこう、それがこれから起こり得る気候変動社会に持続可能な町の基盤をつくるという、ここがこれからの小金井市の社会実験モデルになるような、そういった取組をこのプランに込めている。

【委員】 案の詳細な内容は今後のやりとりの中で変わるという話だが、立体的な広場、地形的な建築がコンセプトで、非常に空間的な魅力を持った案だと見ている。立体的な広場と言った時に、接地面、グラウンドー01と呼んでいる所はかなり特別で、その使われ方は、災害時は何となくイメージできるが、日常あるいはイベント時の開催のイメージ、それが立体的な、例えばグラウンドー02と何か連携した使用を考えているのかどうかというのが一点である。

次に、立体的な広場を考える時に、バリアフリー、ユニバーサルな観点からすると、ただエレベーターで行けるという話なのか、こちらは庁舎だけではなく福祉会館も一緒に建設されているものなので、その辺りについても考えを聞きたい。

【提案者】 立体的な連携に関してだが、今も武蔵小金井の駅前等でいろいろなマルシェ、市場のようなものも行われて、非常に催しもの多い市と私たちも見ている。

そういう意味においてはこのグラウンドー01とともにグラウンドー02が、1つは見る、見られる、見下ろせるというような立体的な関係で、1つのイベントも2つのイベントも同時に色々なものが起きるとするのが十分想定されるのではないかと。今のイベントの使われ方からすると、この立体的な連携がむしろイベントでは積極的に活用されるのではないかと見ている。

特に人間は面的に水平面で見通せない部分に対し、上に登って全体を俯瞰して物事を判断するということに非常に興味を持つので、そういう市民活動が幾つも行われている、そういうイメージを、この小金井テラスで幾つもの市民活動が同時に起こっている、そうイメージしている。

もう1つユニバーサルの考え方だが、これに関しては、エレベーター、エスカレーターを使って、いわゆる足が不自由な方、それからベビーカーを押したお母さんたちを上へ上げるといふことに関して言えば、そういう電氣的な仕様をもって上の部分を使うという、それ以外の

方法はなかなか見つからない。

実際に、私たちもこのパースの中で、階段で次々に上がっていきけるイメージをしているが、この階段を上がるというよりは次々に下り、次の場所へ次の緑を探しに行くという、そういうイメージも持ってこの階段を書いている。

なかなか都市の集約した庁舎で、その高密度の中で上へ上げる方法についてポジティブな解決方法がなかなかないが、だからといって、そここのところで上の階のグリーンインフラのようなものの可能性を否定してしまうと、都市のポテンシャルが一層落ちてしまうと思う。

1階だけにしてしまうとどうしても庁舎が四角い箱になって、コンクリートの塊になってしまふ、そういうものを避けるためにも建物全体を使う、そういう仕掛けとしてこの立体的な広場、グラウンドの連続、総称して小金井テラスを考えている。

さらに、日常利用についてだが、今回例えばグラウンドー01と4階の02に関し、それぞれテナントスペースやカフェスペースを併設している。公共空間を今後活用するに当たって、稼ぐ部分も当然重要になってくるし、日常の延長で活用いただくためには、日頃からそういった飲食スペース等を介し、人と人がつながる場というものをつくるということが、活用の面で非常に大事になるのかと思っていて、日常とイベント時の利用、双方がにつながる形で活用されることが望ましいと考えている。

先ほどの4階のグラウンドー02については、ここの敷地の特徴というか、小金井市は中央線の高架に非常に近いということがあると思う。その電車から見えるというのは非常に動機付けになると思う。行ってみたい、小金井市は、このようなことをしているのかという、中央線を使う方にも非常にアピールになると思う。

ユニバーサルデザインというのは動機付けをするのが非常に大事だと思っていて、あの4階に行ってみようという風景を庁舎の中につくっているということが、我々としては非常に大事かと。できれば健康と福祉というのはこれからの行政では、やはり非常に大事だと思うので、元気な人は無理をしてでも階段を使ってもらいたい。

当然車いすの方や交通弱者の方はエレベーターを使っていたきたいと思っているが、そういった思いが背景にある。活動が見える、ここの場合は中央線から見えるというのは非常に大事なポイントなのではないかと思っている。

さらに、もう1つあるが、中間階の4階にあることが高過ぎないかという話が先ほども少しあったけれども、私は今、府中市でも活動しているが、そちらは5階、6階が市民活動スペースになっているが、下にいる人が上に上がってシャワー効果で下に人が下りてくることが実証されている。

例えば、1階だけでそういったことが完結してしまうと、上にいる職員の方が、なかなか日頃知ることができないということもあるので、真ん中にあることによって何が市民活動で行われているというのが、より透明性というか連携ができるかと思っている。

【委員】 グラウンドー0の立体的なというところである。いただいている計画だと、本庁舎が7階、福祉会館が5階ということで、途中でグラウンドー02という計画でいただいているが、今回のコンセプトとして、コンパクトな庁舎という考え方がある。

延床面積について色々と工夫しているところを提案書でもいただいているが、最終的に、今いただいている案での延床面積と、もう一方ユニバーサルというところで、例えば4階までどのように人を誘導するか、どう流すかという話もあるが、一方で福祉会館のところ福祉共同作業所や悠友クラブを別棟にしているようなところがあって、7階、5階、さらに別棟もあるというところの、そのコンパクトな庁舎についての考え方や工夫について、さらに想定延床面積について教えてほしい。

また、最初に説明があったデザインスタジオというところである。そこで小金井市や設計チームでチームを組んで回すという、その辺の運営方法や実際の役割分担等、具体的に教えてほしい。

【提案者】 1つ目の面積、建物の規模に対する考え方ということであるが、要項に書いてあるように非常にコンパクトな建物を目指していることは、こちらも理解している。2つの棟を、共用部を有効に重ねる等で、本設計チームでも16,400少しということで、いわゆる延べの面積に関してはぎりぎりの確保をしている。

しかしながら、今回そのグラウンドの特に4階の部分が大きく見えているが、設えとして私どもは、トータルの全体コストで、一度その計算でコストのコントロールをしている上では、まずコストに関しては心配しなくても大丈夫、というよりは、むしろコストの自信はある。

この規模の建物を免震で、非常に流通材を使ったコストコントロールを心掛けてつくった場合の想定ではある。私たちは特殊材をあまり使わないようにデザインしているので、そういう意味ではその面積に関してグラウンドー02の部分を含めても大丈夫だと思う。

もう1つ、まとめてはいるけれども下で分散している部分というのは、まさにこれは、まちへの開き方の部分への提案である。高架下がこれからどのように使われるか、中央線の高架で敷地よりは都市が分断されている状況を見るに、やはりおそらくこういう部分を使ってつなげ

るということを行政もされると思う。

そのときのデザインの可能性として、こういう小さなボリュームを点在させる、これが庁舎の入り口となるということは非常に大きいのではないかと。面として取る方法もあればボリュームとしてドンと取ってしまう方法もあるが、私たちとしてはこういう小さなボリュームで、北側が開く可能性を探っていきたいという思いで、ここをデザインしている。

デザインスタジオに関してはワークショップを今4回ほど検討しているが、少人数のグループでファシリテーターを配置し、市民の方々、さらにできれば小金井の将来を担うお子さんたちも含めたワークショップを開催することで、その緑の部分も含めた将来の教育の部分につなげていきたいと思っている。

【委員長】 小金井の丘という基本的なコンセプトの中で我々が最も気になっているのは、これによって小金井を象徴する建物になるのかもしれないけれども、きちんと市民団体、あるいは市役所が建物を愛しながらずっと維持管理するという、相当な構えが要るのではないと思う。

市庁舎というのは建物の機能上、非常にセキュリティが要求され、執務時間が普通の市民センターと違うというようなもので、その2つをうまくドッキングするということが非常に挑戦的だと思うが。市庁舎でそういったことをあえて提案するというに関し、話をいただきたい。

【提案者】 市庁舎だからこそ、私はこのような作り方がいいのではないと思う。これだけのお金をかけられるわけである。非常に効果も期待されるというところもある。最も大切なのは、この小金井市の持っている社会資本、この社会資本を皆で共有するためのプラットフォームをつくることだと思う。

この場所でプラットフォームをつくるということと言うと、やはり学校、それからコミュニティセンター等ではなく、市が、そして市民が、皆が必要とする大切に思う建物として、ある意味非常にこの市庁舎というものが、アーキタイプとしてはそのプラットフォームを実現するには適しているのではないかと。

言ってみれば次世代型の行政の建物として、今までの枠から展開力を持つ、将来へ残す、そしてその将来へ教育の可能性も、そして環境が良くなる、そういう可能性も含めて残す建物として、そのアーキタイプとして私は市庁舎というもので、この計画ができると、最も小金井市さんに寄与できるのではないかと考えている。

【委員長】 少し関連するが、その屋外階段や4階や屋上、市民の畑がある等すると、閉庁時にも次々と上れるというイメージで考えていいのか。セキュリティの問題等を補足していただきたい。

【提案者】 セキュリティで言うと、それは、もちろん協議があつてのことだと思う。普段、誰しも上へ上るのがいいとは思わない。特に、この緑の管理に関しては、これからこの上の広場の緑の幅というものは、厳密にコントロールを考えていかなければいけないと思っている。

1つはそのセキュリティの問題もあるが、安全の問題もある。そうして今度それを普段、閉庁時にどう使うかという意味でセキュリティの問題になってくる。それからグラウンドに誰でも入ってこられるということになると、動線計画という問題になると思う。

しかしながら、今、私も他の場所で庁舎をやっているが、建築はそれが可能になると思う。建築としては計画をしっかり行うことで、閉庁時にも例えば4階をうまく使う、屋上をうまく使っていただくということは可能だと思うし、そのセキュリティがどうしても必要な部署に関しては、そのセキュリティを維持しつつ、開放的な執務空間をつくり、市民の方々と執務する行政の方々を分けることは十分に可能だと思う。

【委員長】 以上で終了とする。

(休憩)

《「株式会社 横河建築設計事務所」のプレゼンテーション》

【委員長】 各委員より質問があればこれを求める。

【委員】 1点目、福祉会館を西側に持ってきた理由は説明の中であつたが、最初から西側に持ってきた動機や理由を詳しく伺いたい。

2点目、西側にかなり大きな駐輪場があり、西側よりも少ないが、東側の市役所側にも駐輪場があり、東西に分かれている。駐輪場と人の動線、車の動線、そして、憩いやくつろぎのようなものができる縁側モールという中で、自転車等がそこを通る、あるいは車いす、ベビーカーがそこを通るという中で、くつろぎの場、それが逆にバリアにならないのか。

3点目、庁舎を東側にすることによって、庁舎への日照の問題がどうなるのか教えてほしい。

【提案者】 まず福祉会館を西側に配置した動機であるが、先ほどの説明の中でも触れたが、福祉会館と

いう特性上、要介助者のご利用もあるかと思う。もちろん庁舎にもあるが、よりこの福祉会館のほうがそういう利用が多いと考えている。

そういう意味では例えば駅から歩いてきたり、車いすで来たりという方が、奥までずっと引き込むというのは少し気が引けたというのが最大の理由で、最も近い所でアクセスしてこの福祉のサービスを受けられるという意味で、西側の手前に寄せて福祉会館を配置したというのが最も大きな理由である。

それに加えて福祉会館は、市民の方々が利用し、健康的な空間というか、採光が十分に取入れられるような空間というのも必要と考えた。そういう意味ではこちらの南側にも十分なスペースがあるので、南側からの採光が十分確保できるという意味でも、福祉会館の所に東西に長いというか、そういう配置が望ましいということが理由である。

それから駐輪場であるが、質問時に話していただいたとおり、西側と東側に1カ所ずつ配置しているが、例えば駐輪場をさらに利用しやすいように、下りてからすぐ入れるように、さらに近づけようという案もいろいろ検討した。

そのときに、この車動線と自転車の動線というのがどうしても交錯し、それは危ないだろうという社内の結論になり、できるだけ公共の道路の歩道、こちらの歩行者専用通路から入れる所で自転車を下りていただき、その下りた後はこの歩道をしっかりと整理するようにデザインしているので、この歩道を通して安全に庁舎に入っていくということを心掛けた駐輪場の配置として提案している。

さらに縁側モールであるが、1階にある、くつろぎのスペースという、くつろぎというか市民の方々が活動するスペースとして提案しているが、そこと、この前を自転車や車が通り過ぎる所と、ワサワサしてどうなのだという話だと思うが、逆に訪れた方々が通り抜けたり、車で訪れたりした方が、そういう道路に面していることで、中で行っている活動というのを見ることができると思っている。

ここで、こういう活動をしているのだという、アプローチしているときに見ていただくことによって、なおさら、この活動に参加していただきやすくなる、交流が生み出される等、そういうことを狙った縁側モールの提案となっている。

それから庁舎をこちらの最も奥にした採光面はどうかという質問の中で、やはり採光面で特に重要と考えたのは、どちらかということ、こちらの福祉会館である。ただ、それでも庁舎としては、庁舎もできるだけ明るくするように、こういう北面と西面を解放的な設えでつくって、そちらに面して執務のカウンターを開かせているというような構成の提案になっている。

そして西日を受けるところは、夏場は少しきつい時間帯もあるかと思うので、この窓面の熱負荷を低減するために、ルーバーでカットする等しているが、それに加えて、西側から少し距離を置いた所に、職員の方々が常時使っている執務室を配置しているという提案になっている。

逆に、北面に解放されているということは、常時、日が入ってこなくても、景色が明るく一般的な明るさというのは北面でも十分確保できるので、逆に北面に向いているというのは非常に環境がいいと私たちは考えている。夏も暑くならないし、冬もしっかりとした断熱サッシというものがあるので、断熱サッシ、断熱ガラスで構成していけば、冬場も北側の快適な環境というものは確保できる。

ただし、電車が近いというようなこともあるので、外壁面を遮音性の高いルーバー材を確保することによって中に音が伝わりにくい、そのようなことを色々考えながらデザインを今後とも詰めていきたいと考えている。

【委員】 縁側モールというスペースが施設全体を結ぶということだと、まちを結ぶという意味で非常に大きな役割を果たしていると思うが、その具体的な市民の利用イメージということと協働の場としてということを書かれているので、その辺がどのような空間づくりをするのか教えてほしい。

さらに、プランニングは設計する上で変わるかもしれないが、今、示していただいているところが少し不整形になっていて、空間のつくり方を考えているところがあるのかと思ったが、その辺があれば伺いたい。

【提案者】 まず縁側モールでの協働のイメージであるが、通り抜けにも使える縁側モールであり、市民の方々の活動にも使える縁側モールであるという提案になっている。例えば、市民の方々の展示会や、市民の方々がワークショップで何かを生み出す等というものにも活用できるような十分なスペースであり、こういう所にささやかなコーナーをつかって、そこにテーブルを並べて何か作業ができるようなスペースや、さらに展示のパネルを並べられるようなコーナー等、そういうものが十分取れるようなスペース、フリーに使えるようなスペースとして提案している。

協働の場という意味では、その縁側モールに職員の方々が働いているオープンカウンターが面しているので、ここでの市民の方と職員の方々の協働、行政と市民の方々が一緒になってまちを良くしていこうということを体現できる場所という意味合いの協働の場所というような提案をしている。

そして、不整形というのは、具体的にはどういったことか。

【委員】 通常四角いほうが、色々ロスがない等使いやすさがあると思うが、それをあえて不整形にし

ている理由はいかがか。

【提案者】 あえて不整形にしているところもある。それと、もう1つは外構を整形にしているという意味合いもある。あえてこういう不整形な空間をつくることによって、逆に生み出される空間の広がりというものがあるかと思う。空間がこのように広がることによって、ここは通路にしか使えないが、この辺は作業の場で使えるだろう等、そういう使い勝手を色々考えていただけるような場所になるのではと思っている。

例えば、これが福祉会館の縁側モールの絵になっているが、これも一部不整形になっていて、これが不整形と整合を取る階段と吹き抜けになっているが、このような階段も不整形であるからこそ、こういう活動というのか、例えば、大きな階段をつくって演奏会の観客席に使える等、いろいろな使い方が、市民の方々や行政の方々の発想で生まれるのではないかと期待したつくり方で提案した。

【委員】 縁側モールがこの提案の特徴だと思うが、その外部空間とのつながりがよく分からないので、1階にしろ、テラスにしろ、そういう外部空間との連携というのは、どのように考えているのか。

【提案者】 イラスト等でも示しているとおおり、外部空間とのつながり、この辺は全てガラス面で外部に対して協働作業の活動の場を次々と発信していこうという意味合いを持っているが、ではそれが出入りできなければ、あまり意味がないのでは、という質問だと思っているが、庁舎なのでセキュリティが厳しい施設だと思っている。従って、どこからでも出入りするというのは、あまり好ましくないと考えている。

そのため、基本的には出入り口を限定するという意味合いと、さらに中間期は、やはり窓を開けたいというのも当然あると思うので、幾つかはこの中でも出入りできるような開口を取っていきたくて考えている。

屋外との関連という意味合いでは、上の階にもステップ状にテラスが生まれているので、このテラスも屋外の活動の場として活用できるかという提案をしているが、やはり、これも庁舎ではセキュリティが厳しいので、あまり1階から全て上がってこられる等、そういうことは回避したほうがいいのかということで、フロア単位で、例えば、この職員の方々や市民の方々のコミュニケーションがこういう所で生まれる、福祉施設のこの辺のこども広場の方々、この屋外のスペースを使って活動できる等、そういうフロア限定で使っていただけるような屋外との関連性というものを、提案の中でしている。

【委員】 「はけの杜」というコンセプトで湧水をキーワードに色々なものが、市民の活力がまちの中にもあふれ出るような、そういうコンセプトは非常に面白いと思うが、縁側モールがその象徴的な空間になっているのだらうと思うが、もし縁側モール以外に、「はけの杜」のコンセプトを象徴するような空間やデザインがあれば、説明いただきたい。

また、複合で生まれる機能連携のメリットというものが表現された空間やプランのポイントがあれば、具体的に教えてほしい。

【提案者】 「はけの杜」のコンセプトを象徴するというのは、崖地のふもとから湧き出る湧き水を象徴したように市民の活動が広がるという意味での、低層にある縁側モールというものが最も象徴的な空間という提案をしているが、それとともに、この小金井の風景というか、「はけ」を中心にした風景というものが非常に緑豊かな場所だということも思っている。

そのような風景というものは、次々と宅地が開発されてなくなってしまうかもしれないが、市民の方々の心の寄りどころとしては、大切に思っていたきたい、というのが私たちの提案で、この建物全体でそういう「はけ」をイメージした緑が連続するような表現をすると、市民の方々のシンボルになるのではないかと、庁舎と福祉施設全体で表現したのが、そのコンセプトの意味合いである。

複合することで関連する機能を同一フロアでまとめていきたいという話をしたが、こういうL字型の一辺と一辺で機能を分けると、L字型で構成したことによってこの距離が非常に近く感じるというのが、先ほど説明の中でお話したコンパクトならではの動線が分かりやすい等ということにつながると感じている。

その動線もコンパクトながらの分かりやすさをイメージした動線計画として、このプランが成り立つような中身を詰めていった今回の提案だと理解いただきたい。

【委員】 今回の敷地は広くてオープンスペースもしっかり取れるようになっており、駐車場も多く取っていて、接地面、まちかど広場や駐車場の市民広場としての活用のしかた等について教えてほしい。

また、こちらはJRから非常によく見える敷地でもあるが、その辺の見え方について工夫されたことがあれば教えてほしい。

【提案者】 駐車場の活用方法について、もちろん駐車場で使うことがメインだと思うが、今回要項でも示していただいたとおおり地下にも駐車場を持っていて、私どもの提案は、ほぼ公用車の台数分

を地下に入れようという提案になっている。

敷台足りないところもあるが、その公用車が下に全て入っていることによって、例えば一般利用者が少し我慢すれば、この駐車場を全て空けることもでき、それは一部のイベントのときだと考えているが、例えばバザーや朝市というか、私どもは近所のJAさんともお付き合いがあり、そのJAさんと連携した朝市等というのもの、こういう駐車場を活用しながら生まれるのでは、と思うのと同時に、このまちかど広場に関しては現状ここにある公園で、何度か現地を見せていただいた時にお父さん、お母さんと小さなお子さんが非常に多く楽しそうに遊んでいる。あの風景を消してしまうといけない、ということで、できるだけこのアクセスのいい地上部にそういうお父さん、お母さんとお子さんが遊んでいる姿を見ていただけるような場所に、まちかど広場を解放し、そういう姿が市民の方々の活性化にもつながる、お子さんも一緒に育てる等、そういうものにもつながるといいな、というところを提案している。

JRからよく見える、逆に見ていただきたいという提案である。電車で通過したときにチラッと見える風景は非常に印象的だと思っている。そのときに、ぼっと通り過ぎて、緑の多い庁舎だな、中で何か行っているなど、1回緑で目を引いて、よく中を見てもらうというような、そういうJRと視線で交流を図って、さらなる市民の方々の活動や、他の市からも何かに参加していただく等、そういうことにもつながっていただきたいと考えている。

また、中に視線が通るのは良くない所もあるかと思うので、そういうものは、先ほど、こういうルーバーで目隠しもできるという話でしたが、そういうもので打ち合わせの中で見られてはいけない所はふさぐ等、そういうことは考えていく。

【委員】 工事ステップ図でリサイクル事業所の北側を工事動線として使うが、結構大型の車両が通ると想定される。

おそらく現地を御覧になっていると思うが、あまり広いスペースもない。さらに、当然道路の方から入ってくると右折や左折するというところで、交通的なところも少し懸念されるが、その辺で、何か具体的な考えがあれば教えてほしい。

【提案者】 北側の通りだが、当然、現地を十分確認し、失礼ながらメジャー等も当たらせていただき計測したところ、万年堀で閉じられており、境界はよく分からないが、ペイントでポイントが打ってあった所があって、おそらく、これが境界かというところから、万年堀まで7メートルほどあって、斜面で落ちていっているというところも測ると2メートルほどであった。そうすると残り5メートルほどは確保できるので、5メートルあれば十分重機の通行には耐えられるスペースだと考えている。

右折、左折という点は、例えば、出入口をこちらだけに限定してしまうと、出る・入るが全てこちらで賄わなければいけなくなってしまうので、例えばインとアウトを分ける等、工事車両の取り回しというのものにも間違いなく活用できる通り道になると考えているので、スペースとしては十分なスペースが確保できる。

工事でも将来利用するときには5メートルだとすれ違いがきついかもかもしれないが、なんとかぎりぎりできる程度の広さかとは考えている。例えば、斜面の部分をもう少し盛って広げるといっても、工事の中で考えられる。

【委員長】 各階がセットバックしていく関係で、2、3、4、5、6各フロアに屋上テラスというものが付いている。平面図で見ると屋上テラスと各階の室内というものは、あまりつながった印象がないので、見る緑かとも思える。鳥瞰図を見ると、多くの人がテーブルやいすを出してそこで憩ったり食事をしたりしている。

この屋上テラスというものは、どういったイメージで計画されたのか、少し補足してほしい。

【提案者】 おっしゃるとおり、このイメージは、にぎわいを少し付け足し過ぎているかもしれない。ただ、こういう広々とした屋上広場というものができると、市民の方の憩いも当然として、職員の方々が、なかなか小さな休憩室だけで休むというのは少し心苦しいというものもあるので、職員の方々の憩いの場にも使えるかと考えている。

内部との連携という意味では、このプランの場合では、エレベーターの出入口と階段周り等を固めて、その外はガラス面で通路を取って構成している。そうすると、この通路越しに表に出やすい環境づくりというのは十分可能かと考えている。

もし、私どもに仕事をさせていただけるのであれば、いろいろ話を伺いながら屋上の活用イメージ等について話をしながら最終的な案に詰めたいと考えている。

【委員長】 皆さんが興味を持っているのは縁側モールだと分かるが、その縁側モールが新庁舎と新福祉会館をうまく連携する1つの重要なスペースであるということもよく理解できる。しかし、1階の平面図を見ると、その縁側モールのL字型の所が非常にくびれていて、細かい話で本当に恐縮だが、何か縁側モールが2つに分かれていて、真ん中は受付があるのだけれども単なる通路のように見えてしまう。

その縁側モール、あるいは両建物のバッファとして会議室が並んでいるとなると、このL字の角の部分は何かもう少し余裕があり、向こうのカウンターが見える等、そういう連携の仕方もあるかと思ったりするが、その辺は何か考えがあれば教えてほしい。

【提案者】 おっしゃるところも、なるほどと思った。くびれていることによって先ほども言った狭い所と広い所をつくりながら、通過動線だけの部分と何かたまりができるような部分という、そのような明快な空間の使い勝手というものが生まれるとは考えている。全体の絵だと少し狭く見えるが、この角から点線までおよそ6メートルあり、それほど狭くないと考えている。

その辺は設計の中で模型やCGを用いて、十分な検証を進める。

【委員長】 以上で終了とする。

(休憩)

《「株式会社 佐藤総合計画」のプレゼンテーション》

【委員長】 各委員より質問があればこれを求める。

【委員】 1つが市役所の北側をかなり大きく幅を取ってピロティ、さらにはワークショップ広場のようなものを設けるということになっており、それは結構なことだと思うが、そういった空間が生まれると、次の問題として自転車の存在が非常にリスクが高くなると思う。その幅が広くなるとかなり今度は北側の駐輪場にそのまま向かう等といったことがあるのではないかと思っているので、安全性については、通常安全性と違って、福祉会館の利用者の安全性というのとはより厳しくなる。その点について、どう考えるか教えてほしい。

また、車道について、福祉会館を利用する人たちが、大型リフト付きバス等で来たときに、転回や極力近くで利用者を乗降させるということが容易にできるのかどうかという点について教えてほしい。

【提案者】 私たちも自転車のことについては考え、出入口に近い所に、今のところは分散して配置をしようとしている。こちら結構、自転車が通っている。この中を通り抜けている人は今もいるし、私も危ないと思っていた。

実はこの道、先ほど臨時駐車場にもできると言った道があるが、例えば、ここは幅員6メートル以上あるので、片側に自転車専用レーンをつくることで、こちら側に回る自転車のルートをきちんとつくること、なおかつ敷地内に入ってもきちんと自転車のルートを確保するというのを今、考えている。

続いて大型バス等のリフトなのですが、私たちの特徴としては、しっかりとした大きなピロティがあって、割と自由に使えるような大きなピロティをつくりたいと、思いやり駐車場も全てピロティの下に入るといった計画を今考えている。

そのような中で重要なのは高さの問題だと思うが、自動車のサイズに合わせて1階は少し階高を高くしようと思っているので、そのピロティ下で十分作業できるのではないかと思っている。高さを確認しながら十分その計画にしていきたいと思っている。

【委員】 ピロティについて、年々構法等も新しいものが出てきているので、安全性、耐震性技術は年々向上してきていると思うが、過去の震災を振り返ると、ピロティの空間の脆弱性というものは、多々問題にされてきたところである。

そのピロティをわざわざ福祉会館の前で災害拠点の活動の場の拠点として使うということが、いくら技術が上がるとはいつても、これだけ地球環境が変動している中、若干リスクかと感じたが、そこについての考えを伺いたい。

また、こどもひろばが、ずいぶん隅に追いやられている印象があり、こどもひろばについて、もう少し紹介いただきたい。

【提案者】 まず、ピロティについて、安全性は本当にきちんと確保する。

安全性に関して、福祉会館は耐震構造で考えていて、大きなスパンを考慮するが、もちろん床の揺れ関係は十分配慮した部材選定に努める。もう1つ、我々の提案の特徴としては、耐震の揺れ方と、免震庁舎の揺れの周期の違いを利用した免制震という連結をすることで、お互いの揺れをさらに小さくしようという提案をしているので、安全性はお互い向上しているという考え方である。

【委員】 揺れはそこで吸収されるということか。

【提案者】 そういう考え方である。

こどもひろばに関しては、既存の樹木も残し、自然観察等もできるようにしたいと思っている。小学生以下の子どもたちとお母さんたち等が、一緒に憩えるような場所にする。遊具を置くかどうかということに関しては、皆さんと相談しながら決めていきたいと考えている。

付け加えると、場所については、福祉施設の近くの方が、お母さん達が来る可能性がある

思ったので、このようにしている。これから、ワークショップを開いて進めながら、皆さんと一緒に決めていければと思っている。

【委員】 コンセプトも「重ね合わせる」と「結びつける」と明確で、非常に魅力的な案だと思う。重ね合わせるというところは建物の構成自体も反映されているが、2つの機能の空間が重ね合わせるによって何か連携しているのかという点について、補足説明をいただきたい。

さらに、つながるという意味ではコミュニケーション・ネットワークという提案をしており、プレゼンテーションの中で、まちを巡るような空間づくりという話があった。具体的に図面を見ると階段はあるが、そのような空間をつくる上でどういうビジョンを持っているか、具体的に示していただきたい。

【提案者】 重ね合わせることによるメリットについて、説明の中では真ん中にみんなで使えるという表現をしたが、真ん中のマルチスペースの部分で、お互いの関係性が見えるようにするというのが1つと、セキュリティの設定の仕方ではマルチスペースを市庁舎からも福祉会館からも使うことができるという機能の共有化ができるということが1つである。

そして、設備スペースを重ねている、ちょうど真上に集めている。例えば、電気室や熱源機械室は、福祉会館から先にオープンさせるので、福祉会館の設備スペースが共用できるという計画になっており、重ね合わせているからこそできるメリットだと思っている。

なおかつ有事には最も大切にしたい安全性を担保した市庁舎ということで、免震構造を提案しているが、免震側に置くことができるということのメリットもある。

【委員】 「はげ」をコンセプトにしている割には、この計画は少し広場が中心になって、緑地化が、かなり少ないような気がするが、その辺の考え方を少し教えてほしい。

【提案者】 緑地については、既存の緑、しだれ桜も今あるものを精いっぱい全て移設しようと考えた計画である。その上で、さらに緑をつくるのはコストも掛かるので、広場と延長する頑丈にしつらえた福祉会館部分を中心に、屋上緑化を図るということで、全体がぱっと緑に包まれたような形、さらに周囲のアメニティとしての緑ということで、効果的に配置している。

広場は緑でいっぱいにするのも実はできるし、駅前の広場でもイベントを多く行っているのも、いろいろと見たので、そういったイベントもここで、できるようにすることもできる。場合によっては、しだれ桜も少し横に寄せて、大きな広場をつくらうという柔軟性を与えた計画という考えである。

コンセプトとしては、巡るはげのところについては、基本的には斜路や坂道というのは、非常に小金井市にとって、なじみのあるものだという認識である。例えば、ここの階段をなんとか階段とすることや、あるいはスロープにしてなんとか坂と名前を付けられるように、皆さんと一緒にこれをつくってあげれば良いと考えている。

【委員】 今の質問に関しては、私もおそらく市民の方から緑がもっと欲しい等という意見も出ると思いつながら聞いていた。ただ、そういう余白というか、のりしろというか、何かそれを受け止めるような工夫はされているのだろうかと感じていた。また、市民協働や交流の場が建築にしっかり落とし込まれている感じもあり、その辺もしっかり捉えているという印象を持っている。

JR等含め、割といろいろな所からよく見える位置でもあるので、外観イメージについて質問したい。非常にスマートな外観でペリメーターゾーン等内部との関わりもあると思うが、外観の小金井らしさみたいなものについてどのように考えているか。

【提案者】 JRからの見え方については、この敷地を見たときに初めに思い付いた。駅を下りてから、人がここにアプローチすることも考えた。駅を下りて南口を出ると地図は北が下にあり、それに合わせての方が分かりやすいかと思った。その中で見え方については共用部分、割と皆さんが活動をしているような部分を正面に見えるような配置にし、なおかつ広場の様子も、その中でも、うかがえるという計画にしているところが1つの特徴である。

【委員】 市民参加について、関係者の意見を取り入れるという小金井会議というところで、ワークショップも5回ほど重ねるなど、本当に様々な視点で関係者の意見を取り入れるという点の紹介があった。

御社の提案だとワークショップを5回重ねて、なおかつ市民会議のところも様々な関係者を交えながら進めるというところで、いろいろと意見集約や実際の運営方法等、かなり困難な状況もあるが、この辺の取組について何か工夫や考え方を教えてほしい。

【提案者】 一般的にはワークショップを行っても、市民の意見を反映するということになると、どうしても参加された方々のフラストレーションがたまっているというのが最近分かり、できればそれをいったん第三者的な目も含めた中で考えて、市の方も入っていただき費用対効果等も含めて、そういった意見がいいのかどうか、というのをきちんと考えてフィードバックするという仕組みが大切と思った。

先ほど申し上げたように、使っていただくのは、やはり市民や市民団体の方なので、その

方々のフラストレーションがたまらないような、納得いただけることが最も大切と思い、この仕組みを今考えて、実は2つほどの施設で実践して非常に効果が高いので、提案している。

スケジュールはあくまでも一例である。このとおりに進み、5回開ければ、きちんと皆さんが納得いただける施設がつけるといったものなので、このスケジュールについては、おそらく市議会の都合等、その辺はいろいろあると思うが、その辺りも踏まえながらも一度整理し、柔軟に対応していけると思っている。

【委員長】 今の直前の質問とも関係するが、実施要領の中では、市民の意見を反映させて、できれば工期短縮を図ってほしいというようなことが書いてあるが、あまり工期短縮ということを書かれなかったのも、その辺は考えた上で、今の市民参加をすれば、この程度、掛かってしまうということなのか、それとも工期短縮ということに関して、また別な考えがあるのか、教えてほしい。

【提案者】 もちろん工期を短縮するというのは非常に頭にあり、そういうアイデアも工程の中では考えている。ただ、今はいろいろな社会状況があるので、まずは設計を求められた工期の中できちんと皆さんの意見を吸い上げながらできるという工程の一例を示している。
例えば、これから1月、2月縮めるという話があれば、それなりの対応はできると考えているので、柔軟に対応したい。大事なのは、施工に関しては本当に世の中の情勢もいろいろあり、それについても、きちんと反映しながら、設計をしたいと思っている。

【委員長】 周辺の環境、あるいは、どこからでも入れる等、そういうことは非常に重要だと思う。その分少し建物がスリムになって、かつ東西に長い建物になっている。これは他の案等に比べると、結構長いと思う。
その結果、西側のメインの入り口の所にあるウエルカムひろばというものが比較的小規模で、その奥に入って、小金井ひろばというものが少し長めの広場になっている。悪いという意味ではないが、あえて少し長めの建物にする方が庁舎として使いやすいということも考えているのか、その辺はどのように考えたのか、教えてほしい。

【提案者】 他の案と比べて長いというのは少し意外だが、中のプランは、今までの経験と合わせて、レイアウトできるということを確認して計画しているので、決して無駄になる等ということはない。
建物との距離は、広場やいろいろな関係性はあると思うが、遠過ぎず近過ぎずという適切な距離と思い、この程度の距離というところも設定している。
細長くなっていると感じられる理由は、おそらく、こちら側に周囲に潤沢な緑地を取っているということもあるかと思うので、そういったところのバランスも含めながら縦横の微調整はしていけると思う。それは基本設計の中で調節できる。今はこれがベストと思って提案している。

【委員】 先ほどファサードの話があったが、非常に透明性が高い開放的な施設イメージと感じる。設計する上で、全てオープンにすることに使い勝手も課題もあると思われるが、何か対応は考えられるのか。また、建築の形態が逆セットバック状に、建物が上階になる程床面積が大きくなっていったので、この辺のメンテナンス等は何らか有効なものはあるか、というところを教えてください。

【提案者】 こちらを透明にしている理由は、活動の様子が、にじみ出るようなことを考えている。基本的にJRからの距離が近いので、こちらのガラスについては基本的にはフィックスを考えていて、建物の形を利用して空気を取り入れるという所で消音を考えている。
1階、2階についてはグラウンドレベルで接続してつながる所、例えば、この辺り等はフルオープンにするようなという仕様も、これからの検討になると考えている。
メンテナンスについては、傾斜のガラス面をつくったことがあり、そこで最も有効だったのは階段状のラダーである。メンテナンスラダーを付けることで、スライドして動けるという仕様のものが最もいいのかと想定している。絵には表現できていないが、そういうことを考えている。

【委員長】 ルーフガーデンという比較的大きいものがある。ただ、平面図を見ると、あまり室内とつながった印象はなくて、電気室の前という形なのだが、鳥瞰図を見ると結構人が出ており、このルーフガーデンの利用のイメージはどのようなものか教えてほしい。

【提案者】 基本的にはルーフガーデンについては、緑が多いというよりも、例えば、福祉会館にまつわる屋外で行うようなフィットネスのようなものを、このレベルで行ってもいいし、ちょうどレベルとしてはJRからも見えるので、そういった活動をアピールする場としてもよい。使い方は皆さんと一緒に考えていけばよいと考える。

【委員】 ライフサイクルコストも、かなり削減の工夫をされていると思うが、建設費に始まり管理費

まで、おおむね下がっているが改修費だけ増えているのは、他が下がったのでそのシェアのパーセンテージの割合が増えたということか。改修費の削減努力は少し難しいということか。

【提案者】 今回は ZEB Ready というような、かなり省エネルギー対策をした最先端の庁舎を考えている。その中でインシャルコストとして建設費が少し今までの建物より掛かっているの、その修繕という意味では費用が掛かる。

ただ、光熱費が下がるので、トータルのライフサイクルコストとしては低減できるという考え方で提案している。

【委員】 改修時は今までより少し費用が掛かるということか。

【提案者】 お見込みのとおり

【委員長】 以上で終了とする。

(休憩)

《「株式会社 安井建築設計事務所」のプレゼンテーション》

【委員長】 各委員より質問があればこれを求める。

【委員】 渡り廊下による分館、分節という、その仕組を取ったことの妥当性、有効性について説明してほしい。そして、渡り廊下を含めてかなり庁舎と福祉会館の空間が、何となく、きつくなっているような気がするが、連携としての機能をうまく果たすことができるのか。

車いす、ベビーカー等が容易にすれ違うようなスペースが確保できているのか。

【提案者】 渡り廊下による分節化メリットというか、今回提案した趣旨は、庁舎機能と福祉会館という施設のいわゆる機能の全く違うものになる。違うものと少し関連するもの、そういった機能のものがあるので、それぞれに分節化してそれぞれの機能を確保しようという提案にしている。

それと、例えば、一体にすればどうなるというところを考えた場合に、かなり大きなボリュームになる。その場合は、周辺に対しての圧迫感といったものを考慮すると、建物それぞれに分節化するようなイメージにできるかという形で考えた。

それと我々の提案は、「はけの辻」という所で通りの形、この建物の間を通るような、そういう迎え入れるような形を計画する中で、まちの回遊性のようなものを市庁舎に取り込むことで生まれるのではないかという提案をしている。

それと、間がきついという話もあるが、我々の提案はいわゆる連携しながら分節独立性もあるような、シェアリングという言葉を使っているが、そういった両方活用できるような使い方ができるような微妙な距離感というところを提案した。

それと渡り廊下の幅については、この表現では少し狭いように感じると思うが、少なくとも2メートル、あるいは2.7メートル程取って、十分すれ違いや機能的に問題がないような形で提案している。この辺の具体的なところについては、いろいろ市民の方の意見を頂きながらつくっていく。

さらに、こうしたメリットは、福祉会館にある程度、南側からの採光と通風が取れるということと、将来の変容に対応する工事が大規模工事になっても、それぞれ業務を行いながら工事ができるというような点と、供用を早めるための仮使用がこういったことの方が取りやすい、そういったメリットもある。

【委員】 最新技術を用いたワークショップで、かなり実績があるということだが、新しいツールを使わない場合と比べて、ツールを用いることで、どれほど市民の方々の意見を引き出しやすくなったのか、こういうツールを用いて行うワークショップの効果というものを、是非教えてほしい。

コストダウンにも、かなりこだわっており、早い段階からコスト検証等も行っていて、さらにクリティカルポイントも明確なので事業スケジュールも分かりやすいと思うが、半面非常にタイトなスケジュールになっていて、本当に、このスケジュールで順調に進みそうか教えてほしい。

【提案者】 スケジュールについては、これで提案しているように、クリティカルポイントというか、何をどこまでに決めるかというところを、市の方、あるいは市民の方も交えて、決めることが重要だと思う。そこで、ここまでに何を決めるのか、あるいは、ここで決まらなかったときにはどう挽回するか、というようなところも考えながら進めていく。

スケジュールは、おっしゃるとおり余裕がないので、一つずつ段階を見ながらステップごとに後戻りのないような設計が必要と考えている。

BIMを使って行うということで、例えば図面をベースにして、その中の建物を動画で歩い

て皆さんに見せ、バーチャルリアリティを使って眼鏡というか、それを付けて、ある程度、実体験できるようなことを早い段階のところで見せることができる。

そういったところで、一般の方に、より分かりやすい、図面ではなかなか分かってもらえないところを理解いただけるといような、体験型の情報共有や、視覚的、直感的に良い悪いが理解できる等、そういった効果を上げられている。

【委員】 施設デザインとしてはこの「はけの辻」から派生した「はけの舞台」という提案が1つポイントになると思う。先ほどのお話の中で市民活動が外に、あふれ出るといような提案をされているが、どう実現できるのかというところを教えてください。さらに、内部空間としては庁舎の施設として、この「はけの舞台」はどのような役割を果たしているのかというところを教えてください。

【提案者】 外観は基本的にはシンプルにつくっているが、「はけの舞台」というものも、まちと人をつなぐ1つのアクセントとして考えている。部屋の中については、例えば1階の部分については、地元の野菜を展示販売するマーケットや市民の展示スペースに使えるような部分になると考えている。

上の階は市民の方が自由に使えるラウンジや会議室といった部分に、今こういった部分を充てているが、一部少し外に出て「はけの崖」をイメージさせるようなテラスに、少し植栽帯を設けて、ささやかな休憩には、そこに出られる等、そういったようなことをイメージしている。

【委員】 地上レベルからは、上層階のそのような開口部は、なかなか見えないかと思うが、電車から見えるのを意識されているのか。

【提案者】 お見込みのとおり。外に向けて小金井を少し発信するという意味で、電車からも、少し目に留まりやすい、そういった仕掛けとしても考えている。

【委員】 なかなか小金井らしいコンセプトで素晴らしいと思うが、小金井の1つの特徴として雨水浸透をかなり多く使っている。レインガーデン等も入れているが、これも少し見える化できるような工夫がないのかと思っている。

ワークショップで、BIM、VRでよく見えるようになるというのはそのとおりだと思う。テーマに合わせた、いろいろなワークショップを考えているが、テーマごとに設定しているというのは何か意図があるのか。

【提案者】 湧き水があるということで、小金井市は特にそういったことも大切にしているので、雨水貯留層は外部の広場に全体的な雨水貯留を考えていきたいといようなことや、舗装もなるべく浸透するようなものを使ったり、できるだけ土の部分の設けたり、そういったことで基本的な雨水を貯留したり吸収したりすることを考えたいと思う。

レインガーデンについても水の風景といったものをつくりたいと考えたが、機械で動かすような噴水等というイメージではなくて、レインガーデンの下が、ある程度、雨水貯留層になっていて、雨が降ると、それが少し上がり、雨の量によっては多いときも少ないときもあるし、少し自然の力を使った水系をつくれればということで提案している。既存の樹木が残る部分にそういったものをつくって、少し子どもの遊び場や市民の水をイメージさせる1つの仕掛けにしたいと考える。

ワークショップは、進捗によって、市民の皆さんがイメージできる部分も違うと思うので、最初は、市庁舎はどういうイメージか、では、この部屋はどのように使いたいのか、何かできるならどうするかと、そのようなことを段階に合わせて子どもから多世代の方に向けて幾つかのテーマを決めて、参加者も自由に参加するのか、少し抽出してお願いするのか、そういったようなことも踏まえながら行っていければと考えている。

【委員】 「はけの辻庁舎」というネーミングやコンセプトは素晴らしいと思うし、「はけの杜」というふうに樹木が生い茂っている所と、割と全天候型のイベントが開催されるような広場との対比も非常にいいと思った。先ほどの委員の指摘とも重なり、「はけの舞台」だが、やはり平面図を読み取る限りは、どこに対応しているのかわかりにくく、今の時点では読み取れない感じもある。

市民と行政の協働があふれ出すということだが、1階のロビー等を見ている、活動が行われる場は多目的利用室のような部屋内になっているので、補足的に市民協働がどう見えるか等、具体的な場のイメージがあれば補足して欲しい。

【提案者】 「はけの舞台」については、今、我々が提案したように、外からでも市民の活動や市の職員の方の活動が見えるような、そういった設えをしたいと考えていて、部分的には、少しバルコニー上で屋外に人が出られるような形にしたいと思っている。どこまで許容できるかは相談させていただこうと思っている。

さらに1階には少し、例えば、市の野菜といったものを販売する等、そのようなイベントができるような、それも1つの「はけの舞台」と我々は思っていて、いわゆる活動や市の情報と

いったものが市民の方、特に「はけの辻」等ということで、そのような回遊動線を設けている。それによってそういったものが市の方が、今、ここで何か活動している等と感じられるようなスペースを思い描いている。

少しワークショップに絡むことだが、「はけの舞台」をワークショップで決めるというのがいいかということで、そういった意味で、最初はシンプルなところにアクセントでと言ったのはそういう意味もある。1つは、やはり、この外観を決めるというのは、ワークショップの1つの要素であってもいいのかと考えている。

【委員】 竣工時期について、いろいろと工夫をされて、かなり短縮されていると見ていて、こちらの提案書にも様々な工夫が記述されているが、その辺の竣工時期をかなり早くしているところの説明をもう少し詳しくしてほしい。

もう一点が、やはり今回のこの施設をつくるに当たって、複合施設としての考え方を大きく打ち出していて、先ほどシェアリングという話もあったが、一方で建物的な部分で、例えばエレベーターや階段1つ取っても、どうしても渡り廊下だと維持管理や初期のイニシャルも変わるかどうか分からないが、その辺の効果というのはどうなのだろうと思うが、その辺を説明願う。

【提案者】 工期については他の提案も同じ条件だと思うが、1つは高架下を工事車両が通れ、2方向から通れるという1つの条件が大きいポイントと思っている。そういったことで、福祉会館側も高架を通して単独で工事ができるし、庁舎側は西側から工事ができるということで、2つの工事を進めているときに、それぞれ別の建物にとらわれずに工事ができることが最も大きい状況である。

さらに、面積と階数を少し縮小したというところの総合的な部分ですが、工事動線の部分が大きな短縮になると検討の上、結論を出している。

複合化ということは、主要な課題の1つとして捉えているが、庁舎と福祉会館ということで、やはり子どもの相談といったようなところで、あまりに付き過ぎていると、いろいろプライバシーの問題という部分があり、将来のことを考えても、連携とそういった独立というようなところを考える中では、いろいろな意味でメリットが大きいということで提案した。

少し補足をすると、コアとイニシャルの話に関しては、今回、新福祉会館を早期竣工させなければならないということで、仮使用認定を取らないといけないという条件がある。仮使用を取る場合には、その部分が単独として竣工していないといけないという条件があるので、仮設の外壁や区画の部分等、避難に関しても2方向きちんと、その部分で単独で取れてないといけないという決まりがある。

したがって、結局一体化をするに当たっても、2方向避難コアが必要であったり、外壁の設置が仮設で必要であったりするので、結局、分棟にしていた方が仮使用の早期竣工という意味では有利だし、コスト的な意味でも面積的な意味でもデメリットにはならないと考えている。

【委員長】 今までの委員の指摘と絡むが、最初から言われた小金井市は「はけ」だと、その「はけ」を一種のネットワークの拠点にしようということは非常によく理解できる。そういった周辺の散歩道というか、まちづくりと、この庁舎の建築の両方が相乗効果を生むかどうかということだと思う。そういった視点で見ると、敷地の周辺に大小取り混ぜて広場がある。そこまでは理解できるが、よく分からないのは、庁舎建築と福祉会館の間に「こきんちゃんコンシェルジュ」や「はけの辻ロビー」と書いてある1階の部分「はけの辻」の道に重なっているわけである。

ここが、唯一の室内になっていて、そこがはけの辻となって、西の方からと、東の方からと行き来するという通路機能のようなものを果たすわけだが、そういった役割と2つの少し異なる建築をここで融合させる、連携させるということは、この大きさで両立できるのかというのは見た目では、なかなかよく分からない。

先ほどから出ているが、2つの建物を別につくった方が仮使用の問題等で、いろいろメリットがあるということも分かった上で、「はけの辻」というコンセプトを生かす、あるいは別な建物なのだけでも、もう1つ工夫があって連携というものに、もう一步踏み込むと良いが、その辺が、いまひとつ理解できない。

したがって、合理的や仮使用がしやすいということは十分理解した上で、もう一步連携というものに踏み込むための工夫があり、「はけの辻」のロビーの工夫があるとすれば、もう少し補足してほしい。

【提案者】 そういった部分は考えている中で、いろいろあった。「はけの辻」と「辻」に掛けているのは、敷地的にも小金井市のど真ん中であり、今回の通り抜ける通路や福祉会館と庁舎のど真ん中の十字路、そういう2つの意味合いを掛けているのが「辻」ということである。

1階はある程度、ロビーや福祉会館側のエントランス、広い共用部分があるので、こういった部分では、ある程度、連携が図れ、案内や人の動きというものも連携が取れるが、おっしゃるのはおそらく上の所だと理解している。その渡り廊下の幅の話も先ほどあったが、建物がつながっていたとしても、廊下だけでつながっていれば離れても付いてもある程度、同じだと思

う。

したがって、廊下の幅の問題を解決する等、渡り廊下も単なる渡り廊下ではなく、展示等の機能を少し持たせたそういうスペースにするというのも、今、話を頂いて考えられると思った。

また、各階では、それぞれ連携できるような案を出しているが、こういった部分も、もう少し市の方々と話をし、階構成についても、さらに連携しやすい階構成もできる。そのようなことも考えて、さらに今言った我々が提案しているものを、今後さらに厚みのある提案にしようと考えている。

【委員長】 以上で終了とする。

次第4 二次選考 公開プレゼンテーション、ヒアリング閉会

【事務局】 小金井市新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設基本設計公開プレゼンテーション・ヒアリングを閉会する。

本日の公開プレゼンテーションの結果については、この後、非公開で二次選考の審査を行い、委員長から市長への報告を経て、3月18日以降に市ホームページに掲載する予定である。

次第5 二次選考 審査

【委員長】 これより二次選考の審査を行う。はじめに、事務局から説明を求める。

【事務局】 資料2を御覧いただきたい。選考結果及び技術提案書の公表についてである。

事業候補者(以下「候補者」という。)、事業候補次点者(以下「次点者」という。)は、3月18日(月)に市ホームページに掲載する予定であるが、公表方法について、「1. 候補者と次点者の社名のみを公表」、「2. 候補者と次点者の社名及び評価合計点を公表」、「3. 候補者と次点者の社名と5者の評価合計点の公表」の3つのパターンが考えられる。

他市の事例では、候補者と次点者のみ公表しているところが多い。

事務局としては、市ホームページでの公表については、実施要領において「候補者名及び次点者名を市ホームページで公表する。」と記載した上で募集をかけていること、また、他市の事例を踏まえるとパターン1が多いこと及び3月18日の公表を予定しており時間的余裕がないことから、候補者及び次点者の社名のみを公表することが望ましいと考える。

技術提案書については、本日会場内に展示を行い公開したところであり、市民の関心の高さ等を考慮し、候補者と契約を締結した後、受託者の了承を得た上で公表することが望ましいと考える。

資料3を御覧いただきたい。

選考結果報告書(案)である。選考結果を委員会としてまとめ、後日公表する予定である。

1ページ目はプロポーザルの概要として、これまでの経過をまとめている。2ページ目が設計者選考基本方針の概略として、実施要領等の概略をまとめている。4ページ目に、一次選考通過者名を記載するとともに、一次選考と二次選考の概略をまとめている。5ページ目にある審査講評は、公開プレゼンテーション、ヒアリング及び本日の審査を経て、委員会での審査講評として4月上旬頃に取りまとめたいと考えている。

4ページ目の二次選考の結果であるが、審査講評では5者の講評を行っていただく予定であり、選考結果についても5者載せる案を示しているが、議論いただきたい。

最後に第2回選考等委員会、第3回選考等委員会の会議録についてである。第2回選考等委員会の会議録は、現在事務局で作成中であり、委員確認後、市ホームページで公表する予定である。第3回選考等委員会の会議録についても、委員確認後、市ホームページで公表する予定である。

【委員長】 二次選考の結果は、市ホームページで公表することになり、市ホームページへの公表方法として3パターン示されているが、候補者及び次点者の社名のみを公表することについて、承認ということによろしいか。

《異議なし》

【委員長】 技術提案書の公開についてである。候補者の了承を得た上で、技術提案書を公表することについて、質疑等があればこれを求める。

【委員】 5者出す事例もある。候補者だけでもよろしいかとは思いますが、市民も関心があると思う。

【委員長】 色々な考え方があある。候補者と次点者について公開することもあるかもしれない。公開時期はいつか。報告書の中に記載するのか。

【事務局】 技術提案書の公開については、候補者と協議の上、契約締結後に公開することが、本日踏っている内容である。

技術提案書については、今回、公開プレゼンテーションを行うという前提で、技術提案書を提出してきているが、技術提案書の著作権は各社に帰属しており、契約に至らなかった事業者の技術提案書について、掲載するのは難しいと考える。

【委員長】 候補者の技術提案を公開するというのは、市報への掲載や今後の市民参加や説明会等において、今回の技術提案を基に、これから議論していくという意味が強いと思う。プロポーザルの結果報告という意味合いより、次のステップを重視するものであり、候補者のみでいいと思うが、いかがか。

《異議なし》

【委員長】 資料3の選考結果報告書についてである。これは4月中の作成を目指し、報告書としてとりまとめるものである。そのときに5者にプレゼンテーション等をしていただいたので、この5者の名前を公表した上で、審査に関する議論の結果を報告することが、今後、同様の事業をす

るときのためにも必要と考えている。
5者の社名及び評価合計点を入れた上で、選考等委員が評価した部分や評価できなかった部分を、講評として書いてはどうかと考えている。一方、候補者と次点者は評価合計点を出し講評を行い、その他3者は講評のみを行う方法もある。意見等があればこれを求める。

【委員】 評価合計点を公開するというのは、オーソライズされた形のものではなく、どうしても曖昧性等が排除しきれないものになるのではないかという懸念がある。これからの選考を考えた上で、評価合計点の公開ということについては慎重に考える必要がある。

【委員長】 委員の評価は項目ごとの配点まで出しているの、ある程度の責任があるかと思う。他に意見等があればこれを求める。

【委員】 報告書が取りまとめられた後、市民等からの求めがあれば報告書がオープンになるのか。

【事務局】 報告書は求めがなくても公開する予定のものである。

【委員】 資料3の案だと、5者全てに評価合計点を付けるということか。

【事務局】 そのとおりである。選考結果報告書(案)は5者全ての点数を出す記載となっているが、委員長からは、点数を出すのは候補者、次点者のみというのものもあるのではないかということ、
委員からは、そもそも点数の公開は慎重にすべきという意見である。

【委員】 最初に候補者と次点者のみの点数を出すのであれば、これを市民が情報公開請求すれば、他者の点数はどうだったのかということが分かる。結局、市ホームページは点数を開示しない、報告書では全て記載というのが今の1つの案である。

仮に候補者と次点者の名前のみを公開することになると、報告書との整合性、統一性はどうか。

【事務局】 実施要領において候補者名、次点者名を市ホームページで公表するとしており、3月18日(月)に行う市ホームページでの公表は、社名だけでよいのではないかと考えている。

各事業者に対しては、同日に結果を送付する予定である。資料3は、選考結果報告書として取りまとめるものの案で、5者の社名と評価合計点を載せている。

【委員】 候補者、次点者の社名のみを書いて、それぞれに対し講評を書くやり方もあるのではないか。

【委員】 候補者及び次点者は載せてもいいと思うが、5位の事業者に配慮すると、評価合計点は記載せず講評だけでもいいような気がする。

【委員長】 市民は、審査が非公開の中でどのように1位、2位が決まったのかと思うわけであり、そのとき各委員が採点をして、それを合計して上位2者を選考したので、5者まで評価合計点を出してもいいと思っている。

しかし、下位の3者にも配慮した方がいいのではないかという指摘があれば、下位の3者は評価合計点を出さずに講評のみにする方法もある。5者全て評価合計点を書かないというのは、プロセスが全く分からなくなる。

【委員】 選考結果報告書は市ホームページに載るのか。

【委員長】 掲載する。

委員長としては、5者の評価合計点を公開し、講評も公開とした方がいいのではないかと思う。したがって、下位3者についても、講評した上で評価合計点もオープンにする。実施要領

に各項目の配点等を定めており、各委員の採点で選考を行うこととしている以上、評価合計点を記載する必要があると考える。委員名の特定できる採点結果は公開しない。つまり原案どおりである。

小金井市で市民の関心の高いプロジェクトなので、できる限り公開しようということでプレゼンテーションを公開した。選考結果は市民も関心を持っており、得点や講評にも関心があると考えられる。

したがって得点だけが独り歩きするのは良くないと思うので、委員会での議論による結果の評価合計点と講評をペアで出すことがふさわしいと考える。

ただし、技術提案書を提出し、プレゼンテーション及びヒアリングに参加していただいているので、下位3者に対しても感謝の意を示しつつ、評価できる点・できない点等の委員会の見解を書いた方が、設計事務所にとって次のステップに活かせると思う。原案どおりでよろしいか。

《異議なし》

【委員長】 採点について、事務局から説明を求める。

【事務局】 二次選考における確認事項について改めて整理する。一次選考の評価点は持ち越さない。評価は、テーマごとの配点方式として、評価合計点が最も高かった者を候補者、次に評価が高かった者を次点者として選考する。同点の場合は、委員の多数決で決定する。結果については、候補者名及び次点者名を市ホームページで公表する。以上を踏まえ、採点願う。

【委員長】 確認事項を踏まえ、採点の集計を行うが、その前に意見交換を行う。
小金井市新庁舎・(仮称) 新福祉会館として実現性があるのかも踏まえて考える必要がある。
公開プレゼンテーション等を踏まえて意見交換を行った上で、採点を行い、集計したいと思うがいかがか。

《異議なし》

【委員長】 大建設計・雄建築事務所について、意見を伺いたい。
非常にきめ細やかな、大変な調査能力だと思うが、一方で、建設計画調査を受託している状況があり、その点が多少有利だったということも考えられる。

【事務局】 その他の調査報告等も資料として提示した上で募集している。

【委員長】 情報量に差があると思うが、その辺りの判断は各委員に任せるとすることでよろしいか。

【委員】 実施要領で参加を妨げているわけではないので、同列で評価しなければいけないと思う。

【委員長】 他に、確認したい事項等はあるか。

【委員】 小金井の市庁舎整備ならでは、というところが少し弱い感じがする。市の顔となる施設としての意義というものがなかなか見えてこない。
また、1棟で提案されている点が、仮使用の課題に対し不確定なところがある。

【委員長】 仮使用の話が出た。他の4つのグループは、仮使用についてクリアしているのか。

【委員】 受付番号①と⑥は建物が一体的なので、クリアできるかについては懸念点があり、他者は一応分けているのでテクニカルな部分での可能性は明確だとは思った。

【委員長】 仮使用とは設備とかもできるのか。

【委員】 一体的な構造となっており、大丈夫かとは思った。

【委員長】 事務局の見解はいかがか。

【事務局】 仮使用は仮設で外壁や避難階段をつくるというやり方も考えられるので、仮使用不可能ということではないと考える。仮使用時に必要なものは、その時点で用意し、法令をクリアすることで可能であると思われる。

当然別棟で建てて、そこに全て仮使用で成り立つ階段等が入っていれば、クリアするための基準は明確であると考えられる。

【委員長】 仮使用の考え方を明確にし、別棟のようにすることを考えれば、合築する意味がなくなり、何のために複合施設とするのか分からなくなる。しかし、他の4者も仮使用のことを前提に提

案してきており、コストの増減があるかもしれないが、同じ土俵で考えていいと考えられる。
次の遠藤克彦建築研究所について、意見を伺いたい。

- 【委員】 今日話を聞いても、設計コンセプトにそれなりにきちんと根拠があり、また地域の特性なども考えられており、新しい施設提案という意味では、印象は非常に良かった。
設計チームの体制としても、申し分ないと感じた。
- 【委員】 この小さなボリュームを点在させるという点で、移動等がなかなか難しいと考える。また、弱視や全盲の視覚障害の人たちにとっては、あちこち振り回される可能性があるというようなことも含めて、その辺のコンセプトに疑問を持った。
- 【委員】 ユニバーサルデザインに関する説明の中で、4階にグラウンド02を置いて、行ってみたくなる場所をつくるというものがあり、ユニバーサルデザインに対して非常に良い考えだと思う。
例えば、高齢者のまちづくりなどでも、出掛けるバリアを取り除くだけではなくて、あそこには是非行ってみたい場所をつくるのは非常に重要なことと思う。一方、外階段が連続しているのは、それを見て私はあれを登れないと感じる人は出るだろうと思う。その辺の配慮について、少し疑問を持った。
さらにヒアリングで委員長から指摘があったように、緑地の維持管理を教育的なプラットフォームで行うということだったが、新たにつくる市庁舎で行うのか。例えば、小学校の改修などで行ってみるのならわかる。その辺りがやや気になったところである。外観等は魅力的だし、チームの組み方も素晴らしいと感じた。
- 【委員長】 ボランティアの市民が水やりをしているなど、あれば面白い市庁舎であり、名護市庁舎に近いかもしれない。
- 【委員】 市庁舎は、市民サービスを提供するための執務スペースであり、執務環境として非常に効率性が低いというのが一点である。
また、延床面積が全く減ってないのは、この提案だけである。
市議会をはじめ、市民からの意見を踏まえ、技術提案における評価の視点でもコンパクトな庁舎としている。市庁舎なので確かに見栄えや象徴的な部分というのも必要かもしれないが、コンパクトな市庁舎というコンセプトの中では、延床面積が増えるというのは、市民の理解、市議会の理解も非常に難しいと考える。
途中の緑や空間については、当然、市民参加による管理もありえるが、維持管理コスト、ライフサイクルコストにも懸念がある。
- 【委員長】 意見として承った。各委員は各委員として判断いただきたい。
次は、横河建築設計事務所について、意見を伺いたい。
- 【委員】 説明を伺っていて、一次選考の時の印象と割と近い感じがした。例えば、他のプレゼンテーションでは、疑問点を伺うと市民ワークショップなど市民の意見に従って詰めていきたいという回答が結構あったかと思うが、提案者にはなかった。
例えば、縁側モールの具体的な利用について伺った際に、うまく市民との対話の中でアクティビティを詰めていくというように答えていただくと、割とすっきりした部分もあるが、設計者の意図の説明で終わってしまった。
- 【委員長】 内容的におかしい点は特段ないか。
- 【委員】 工事動線がJRとの離隔が5メートルぎりぎりといった話があり、その点について、事務局としての見解はいかがか。
- 【委員】 基本的に影響がないという回答であったが、成立するののかという疑問は確かにある。
- 【事務局】 提案者の考えでは、緑中央通り側から入って高架下に抜けるという一連の動線として考えているということであった。高架下を通れる車両と高架の北側を東西方向に通れる車両とはおそらく異なるということ、事務局としては想定している。
高架橋の下を通る際には、鉄道設備の下を通るため、どのような車両が通るのかはJRとの協議によるというのが実情である。
したがって、提案者が今想定されている車両などは、事務局としてJRと協議を行っているわけではないので、事務局に見解を問われれば、協議をしないと分からないという回答になる。
- 【委員長】 では、それも前提にした上で判断いただきたい。
次は、佐藤総合計画について、意見を伺いたい。
- 【委員】 私は、どうしてもピロティが気になる。わざわざ象徴的な空間でピロティを使っているの、

技術が次々と進歩しているので大丈夫かもしれないし、一応、免震が最もいいと言われているが、2つの構造に分けることでリスク分散している部分もあるかもしれない。しかし、ピロティというのは過去に震災時に壊れているケースの方が多いと思う。それを、あえて象徴的な拠点にしているというところ、しかも福祉会館の前というのが、いろいろな意味で気になる。

【委員長】 現実的には、どこかに壁を入れ補強する形になるかもしれない。

【委員】 安全と言われても少し気になる。日々、細かい活断層が次々と発見されていて、地球の活動期に入っていると世界で言われているので、心配である。

【委員】 見た目では緑化が足りないという気がする。

【委員】 それは今後の詰め方などで、改善されると思う。

【委員長】 今後改善できる点とできない点、緑の話もある程度、できる点と考える。ピロティは構造的なものであるが、連結免制震庁舎というものは私もよく分からない。

【委員】 連結するというのは聞いたことがある。

【委員長】 ピロティの問題と連結免制震については、少し懸念事項ではある。最後に安井建築設計事務所について、意見を伺いたい。

【委員】 ヒアリングでも確認したが、どうしても空間というものがあまりはっきりしない。

【委員】 私も「はげの舞台」に関して質問したが、具体的な空間用途等がよく分からなかった。

【委員長】 皆さんと同じように私もイメージが湧かなかった。では、採点をするに当たっての意見交換は終了し、採点を行い、事務局へ提出いただきたい。

(休憩)

【委員長】 では投影してもらおうが、一度、各自の採点結果の確認をしていただき、最終的に決定したいと考える。
事務局から説明を求める。

【事務局】 スクリーンをご覧ください。1位が559点で大建設計・雄建築事務所及び佐藤総合計画の2者である。3位が519点で遠藤克彦建築研究所、4位が498点で横河建築設計事務所、5位が491点で安井建築設計事務所東京事務所である。
同点の場合は、多数決により決定することを第1回選考等委員会において、決定している。

【委員長】 それでは多数決を行うが、改めて議論した方が良いか。

【委員】 議論した方が良いと考える。

【委員】 協議した方が良いと思う。

【委員長】 では、投票に当たって1人ずつ2案についてのコメントを少しずつ言っていて、自分の意見を言っていていただき、他の委員の意見もきちんと聞いて最終判断をすることとしたい。

【委員】 大建設計・雄建築事務所の一体化された湾曲な造りというのは、コストは高くなるのか。

【委員】 一概には言えないと思う。

【委員】 結論から言うと、一長一短である。単にゾーニング案であり、後で変更可能ということであれば、福祉共同作業所を上層階に配置しているが、大建設計・雄建築事務所の提案も良い。佐藤総合計画は、福祉共同作業所を1階に配置している。その点で提案の考え方としては佐藤総合計画の方を評価している。一方、大建設計・雄建築事務所の外見は魅力的である。そして、スペース的なゆとりのようなものも含めて、後で福祉共同作業所を1階に配置するのであれば、この2つの提案はどちらを1位にしても構わない。

【委員】 大建設計・雄建築事務所は、全免震で一体となっており、仮使用について疑問が残ること。市民参加の仕組はかなり進んでいると思うが、デザインはよく分からないところもある。外観のデザインとして公園は面白いと思ったが、建物自体に魅力があるかという点で、市の顔として市民に愛される庁舎というイメージから言うと、少し平凡というイメージがある。

佐藤総合計画は、建築は面白いと思うが、どうしてもピロティが気になり、どのように自分の中で解釈しようかというところで点数の差を付けている。今のところは、まだ決めかねているので、他の委員の意見を参考にしたい

【委員】 ヒアリングも聞いた上で、大建設計・雄建築事務所はプランニングが少し堅く、あまり柔軟性がなさそうな感があり、今後どのように対応するかというところが、少し懸念として感じた。施設のデザインに関しては、特に提案性のあるものではない。提案のあった5社の中でもあまり空間構成にゆとりがない感がある。

佐藤総合計画は、いろいろ今後の課題もあるかもしれないが、建築計画が総合的にしっかり考えられており、柔軟に対応するという姿勢を本日のプレゼンテーションでも感じ、評価している。

【委員】 私は両方ともそれほど違いがあるという感じではない。他の委員も言ったように、ピロティを福祉会館の所に使うというのは少し抵抗がある。

【委員】 大建設計・雄建築事務所のプレゼンテーションを聞いていると、地域の事情もよく把握しているし、緑に包まれた庁舎というコンセプトは非常に評価したいが、庁舎建築計画のレベルで言うとかかなり差はあると感じている。遠藤克彦建築研究所のようなアトリエ事務所の新しい庁舎デザインを推したい部分もあるが、やはり佐藤総合計画の経験に裏付けられた庁舎建築の提案は素晴らしいと思う。

プランニングや実際にこなれた感じと、その地域や市にとって、いい庁舎建築のあり方や把握の仕方は、やはり素晴らしいと思った。

最近、庁舎建築で市民協働などといったキーワードが出るが、言葉だけで上滑りしているケースが結構ある。その辺もきちんと建築の形に落とし込んでいるし、評価できる。

【委員】 複合化やコンパクト、使い勝手などは、2者ともそれほど差がないという印象を持っている。したがって、実際に庁舎、福祉会館として活用するに当たっては、それほど差がないかと見ている。

庁舎を建てるに当たって、まだ時間もあるし、いろいろな意見を聴く場面も出る中で、市の事情を非常によく知っており、スケジュールのところも、きめ細やかな提案されているということから、今後の進め方や体制といったところで判断したいと思う。

【委員長】 大建設計・雄建築事務所は、地下駐車場のことや緑のことなど、今日のプレゼンテーションを聴いても、なかなか良い提案だと思った。ただ、個人的にはやはり外観がカーブで白というのは、一体化して見えて、非常にボリューム感を感じる。

佐藤総合計画の方は、長い建築があまり好ましくないが、スリムに見せる工夫というのはこれからできるし、緑が足りないという指摘も窓辺の緑化や屋上の緑化もやる気になれば、いくらでもできるので、変えられる部分と変えられない部分ということを考えれば、佐藤総合計画の方が評価は高い。特に庁舎建築は関係者が多いので、実際に設計すると非常に細かいことで矛盾点が生じる。その点、佐藤総合計画は庁舎建築の経験が豊かだし、いろいろなことを今回も考えて提案している。技術提案書の密度は高いと思う。

ピロティについては、壁の量を増やすしかないと考える。今後改善できる部分に入ると思う。また、全ての質問に対しての回答も好印象であり、あの人に任せられるかという意味では、レベルが高かったと思う。私は佐藤総合計画の方を推したいと思う。

では、意見交換は終了し、投票を行う。

(休憩)

【委員長】 事務局から結果を発表願う。

【事務局】 佐藤総合計画6票、大建設計・雄建築事務所が1票である。

【委員長】 佐藤総合計画を候補者、大建設計・雄建築事務所を次点者とする事とする。異議はないか。

【委員】 ピロティは補強した上で佐藤総合計画と票を投じている。審査講評には付帯コメントをお願いしたい。

【委員長】 承知した。
他になければ承認ということでよいか。

《異議なし》

【委員長】 では、先程、整理したように5者の講評は事務局と相談し、案を作成後、委員に送付するので修正・追加を対応願う。

【事務局】 大変長い間ご協力いただいたことに感謝申し上げます。会議録の確認と本日議論いただいた選考結果報告書（案）については、まとまった時点で順次委員に連絡するので、確認等協力願う。
契約締結後、来年度に設計レビューを予定しており、時期が決定したところで、日程調整の連絡を行う。

【委員長】 他になければ、本日の会議は以上で終了する。

以上